



令和7年度 中学部 生活単元学習の実践事例

単元名：飲食店で食事をしよう

授業者：阿南 蘭

教材について

本グループの生徒たちは食事への関心が強く、これまでの飲食店を利用する学習において、自分が食べるメニューを注文する、財布からお金を出して支払いをする、ちよどの金額をそろえて支払うなどの活動に、支援者と一緒に取り組んできた。また、飲食店は、生徒たちの生活において利用する機会が多く、できるようになったことが普段の生活にもつながりやすい。

そこで、本実践では、飲食店で食事をする活動のうち、メニューを注文する、代金を支払うなどの活動を自分でできるようになったり、できることの範囲を増やしたりしてほしいと考えたとともに、生徒たちの課題の引き受けやすさを考慮し、飲食店の利用を取り上げた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

職業・家庭科
(生活科 小学部2段階 ク 金銭の扱い)

思・判・表：(ア)身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。

知・技：(イ)金銭の扱い方などを知ること。

学 び：ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

社会科(生活科 小学部 2段階
コ 社会の仕組みと公共施設)

知・技：(イ)身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。

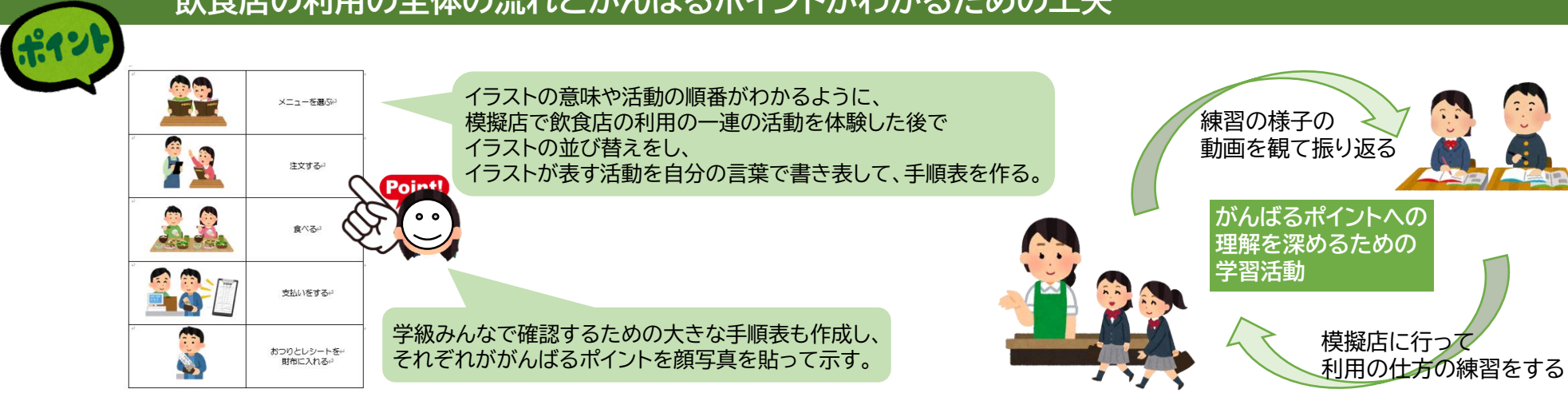
単元目標

知・技	模擬の飲食店でメニューを注文する時、注文するための対応の仕方がわかり、「注文は何にしますか」の問いに、「〇〇と△△をください」と答える
思・判・表	飲食店でメニューを注文する時、店員の問いかけを聞いて、「〇〇と△△をください」と答える
学 び	事後学習でがんばったことを発表するとき、しおりにあるがんばるポイントの項目を指さしたり、「注文」と答えたりする
配 慮	バスに乗降車する前にICカードをポシェットから取り出し、読み取り機にかざした後、ポシェットに戻す

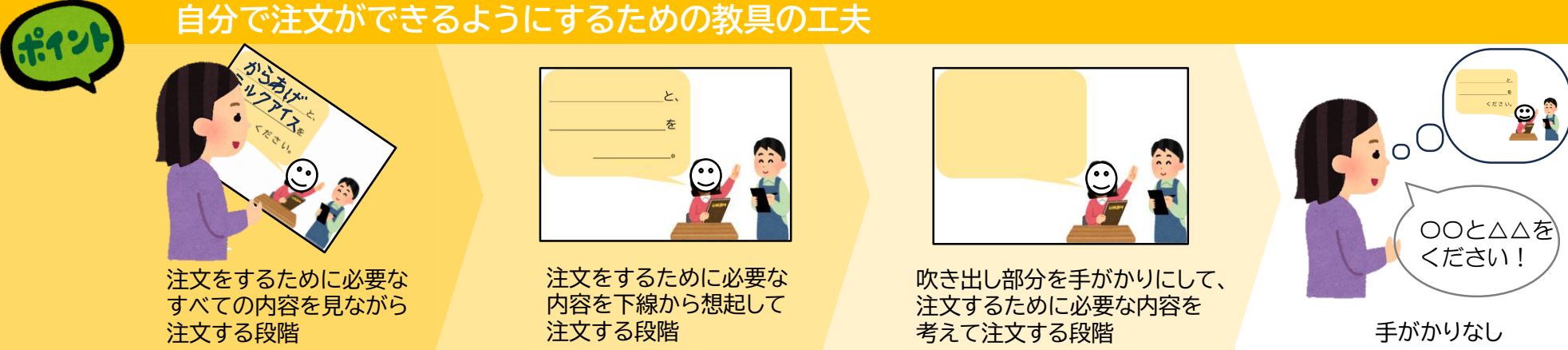
授業評価

知・技	店員役の教師の問いかけを聞いて、「からあげとミルクアイスをください」と答えることができた。
思・判・表	飲食店で、店員が注文内容を尋ねると、「からあげとミルクアイスをください」と答え、食べたい物を注文することができた。
主 体	振り返りの場面で、がんばったところを尋ねると、「注文」と答える姿が見られた。また、教師が店員役になり、実際にどのように注文したのか尋ねると、みんなの前で「からあげとミルクアイスをください」と答えたり、「できた」と話したりする姿も見られた。
配 慮	バスから降車する前に、ICカードをポシェットから取り出し、読み取り機にかざしていた。乗車する際には、ICカードをかざす位置を迷っていたため、教師が「こっちだよ」と言葉をかけ、読み取り機に目が向くように指し示すと、ICカードを読み取り機の正しい位置にかざす姿が見られた。

飲食店の利用の全体の流れとがんばるポイントがわかるための工夫



自分で注文ができるようにするための教具の工夫



考察

○がんばったことを尋ねると「注文」と答える姿が見られたことから、生徒が模擬店で実際に活動したことを自分の言葉で整理し書き表すことで、手順表が表す意味を理解し、一連の活動に取り組みながらも、自分のめあてとなる活動がわかったと考える。また、店員役の教師とやり取りしながら、手がかりを段階的に減らして取り組んだことで、相手に何を伝えればよいかを自ら思い出したり、考えたりして、注文をする際の対応ができるようになった。このことから、手がかりをどのようになくしていくのか検討しておくことが重要であると改めて感じた。

○本実践では生徒の実態より、「単元の課題」として取り上げた活動に繰り返し取り組むことで、自身の課題を意識できるようにした。しかし、課題のモチ方は生徒によって異なるため、今後もそれぞれの生徒が課題を意識しながら取り組めるような活動を組むことに重点を置いて、単元を計画し、指導していきたい。